

2) à déclarer que certains différends et notamment ceux relatifs à l'interprétation et l'application des stipulations conventionnelles internationales sont susceptibles d'être soumis à l'arbitrage obligatoire sans aucune restriction.

Elle est unanime enfin à proclamer que s'il n'a pas été donné de conclure dès maintenant une convention en ce sens, les divergences d'opinion qui se sont manifestées n'ont pas dépassé les limites d'une controverse juridique, et qu'en travaillant ici ensemble pendant

quatre mois, tous les Etats du monde non seulement ont appris à se comprendre et à se rapprocher davantage, mais ont su dégager au cours de cette longue collaboration un sentiment très élevé du bien commun de l'humanité.

Tsudzuki.

### 第三節 國際捕獲審檢所設置問題

111H六 明治四十年六月十九日 在海牙都筑大使ヨリ  
林外務大臣宛(電報)

第一回総会ニ於テ独逸ヨリ國際高等捕獲審檢所  
設置提議ノ件

六月十九日 海牙着

林外務大臣

都筑全権委員

第五号

本日第一回総会ヲ開ク其ノ詳況ハ追テ電報スヘン独逸ハ國際高等捕獲審檢所ノ設置ヲ提議シ米仏兩國ベナリ賛成セリ

リ

111H七 明治四十年六月二十日 在海牙都筑大使ヨリ  
林外務大臣宛(電報)

前件ニ關シ米國ノ態度報告ノ件

六月廿一日 後五、〇 海牙着

第六章 会議の進行、國際捕獲審檢所 111H七 111H七

111H八 明治四十年六月二十四日 在海牙都筑大使ヨリ  
林外務大臣宛(電報)

國際高等捕獲審檢所設置案ニ關スル各國委員ノ  
態度通報帝国政府ノ意向回訓方稟請ノ件

六月廿四日 海牙着

111H八

林外務大臣 都筑全権委員

第一二号

有力ナル委員ノ多數ハ國際上訴捕獲審査所ヲ設置スルノ案ヲ賛成スルノ模様アリ而シテ本案カ何分ノ結果ヲ生スルニ至ルヘキハ一般ニ豫想セラル、所ナリ然ルニ本官ハ本案ノ細目特ニ左記ノ諸点ニ關シ各委員ノ妥協成立ヲ見ルニ至リ得ヘキヤ否ヤヲ疑フ

一、同審査所ニ於テ如何ナル法律ヲ適用スヘキカ

二、同審査所ニ上訴スルノ権利ヲ有スルハ中立國政府ノミナルカ將タ個人モ亦之ヲ有スルカ

三、如何ニ審査所ヲ組織スヘキカ

元來仏国人ハ判決例ニ基ク不文法ヲ好マサルノ風アルカ故ニ右第一点ニ關シ大ニ論議スル所アルベシ目下ノ状勢ニ於テハ本官ハ努メテ何等明確ノ態度ヲ執ルヲ避クヘシ他日若シ我ニ於テ意見ヲ發表セザルベカラザル場合ニ至ラバ左ノ方針ニ依ルヲ我国ノ利益ナリト思料ス即チ日本ハ主義ニ於テ國際捕獲審査所ノ設置ニ贊成スト雖モ追テ國際法カ一層細密ニ明文ヲ以テ規定セラレ又ハ少クモ國際慣習カ從来ヨリモ一層確定セラルヘキ見込立チ以テ同審査所ニ於テ適用スヘキ法則ヲ我ニ於テ一層精確ニ了解シ得ル迄ハ本件ニ關

タルヤヲ問ヒ候處同次官ハ外務大臣ト協議ノ上確答スヘキ旨ヲ以テセラレ昨夕左ノ答牒ニ接シ候  
「上略」萬國高等捕獲法院創設ニ關シテハ獨國委員ニヨリテ提出セラレタル議案ノ全文ヲ入手スル迄ハ何等ノ訓令ヲ我委員ニ向テ發スル事ナカルヘシ云々  
聞ク所ニ拠レハ當國委員マウラ氏ハ平和會議ノ狀況ヲ政府ニ報告ノ為メ今明日中ニ帰國ノ由ニ有之候ヘバ同氏ヨリ萬國高等捕獲法院創設ノ案ニ付テモ親シク聽取ノ上贊否ヲ定メ訓令ヲ發スル儀ニ被察候  
右申進候 敬具  
明治四十年六月廿五日

在西 特命全権公使 稲垣滿次郎（印）  
外務大臣子爵 林 董殿

二四〇 明治四十年六月二十六日 在海牙都筑大使（ヨーリ）  
英國政府ヨリ提出ノ國際高等捕獲審査所規定報 告ノ件

六月二十六日 午後七、五五 海牙發

第六章 会議ノ進行、国際捕獲審査所 二四〇

スル何等妥協ニ加盟スルコトヲ避クヘシ本件ハ全ク新問題ナルニ付何分ノ訓令アランコトヲ希望ス

二三九 明治四十年六月三十五日

西國駐劄稻垣公使ヨリ  
林外務大臣宛

萬國高等捕獲法院創設ノ議案ニ關スル西班牙國ノ意向報告ノ件

機第一二号

八月五日接受

六月十九日海牙平和會議ニ於テ獨國委員長ハ海戰ノ時萬國高等捕獲法院ヲ創設スルノ議案ヲ提出スヘキノ訓令ヲ受ケ居レリ而シテ第一部特別委員會ニ於テ議題トシテ討議スル事ノ適當ナル旨ヲ通告シ英國委員モ同一ノ訓令ヲ有スルヲ以テ獨國委員ヨリ癡議ニ就テハ喜ンデ協力スペキ事ヲ明言シ北米合衆國ノ委員ニ於テモ英獨ノ提案ニ誠意贊同スヘキ事ヲ以テシ継テ獨國委員長ハ六月廿三日ヲ以テ該案ヲ提出シ其要点ヲ説明セシ由ニ付本官ハ此廿四日外務次官ニ面接シ西國政府ハ該議案ニ贊成セラル、ヤ或ハ然ラサルヤ若シ又贊同セラル、トセバ貴國委員ニ既ニ其訓令ヲ發送セラレ

林外務大臣

都筑全権委員

第一六号

英國提案常設國際高等捕獲審査所規定

第一條 常設國際高等捕獲審査所ハ締盟國間ニ於ル海上捕獲事件ニ關シ國際法上ノ審理ヲナス為メ之ヲ設ク

第二條 常設審査所ハ一國ノ捕獲審査所ノ検定ニシテ直接ニ中立國若クハ其臣民ノ利益ヲ侵害シ且ツ該中立國ガ法律上若クハ事實上其検定ヲ不條理ナリト認メタル場合ニ於テ審理ヲナスモノトス

常設審査所ノ検定ハ中立國若クハ其臣民ガ審理ヲ求ムルコトヲ得ベキ各國終審捕獲審査所ノ検定ニ対シテノミ之ヲナスコトヲ得

第三條 中立國ニシテ其臣民ガ前條ニ記載シタル終審捕獲審査所ノ検定ニ依リ損害ヲ受ケタリト認ムルトキハ破棄、若クハ上告ノ方法ニ依リ常設審査所ノ新検定ヲ求ムルノ権利ヲ有ス  
第四條 本條約調印ノ當時八十萬噸以上ノ商船<sup>(四語不明)</sup>ヲ有スル各締盟國ハ本條約批准後三ヶ月内ニ國際海上法ニ堪能ニシテ且高潔ノ法律家一名ヲ其同意ヲ得テ常設審査

所ノ判事ニ撰定スベシ  
一名ヲ撰定スベシ

國ノ「イロハ」順ニ從ヒ補任セラレ一月一日ヨリ一個年間其職務ヲ行フ

第五條 常設審檢所ノ裁判長ハ該審檢所判事ヲ撰定シタル

否相半バ尔斯場合ニ於テハ裁判長ノ決スル処ニ依ル、裁判長ハ其係争事件ノ終結マデ其任務ヲ継続ス

第六條 紛争国ガ條約ニ依リ豫メ法律上ノ問題ヲ規定シ置

キタル場合ニ於テハ常設審檢所ノ検定ハ該條約ノ規定ニ準拠スベキモノトス

右條約ナキ場合ニ於テ法律上ノ点ニツキ文明国間ニ一致シタル定論アルトキハ審檢所ハ此一般ノ定論ニ依リ検定ヲナスベシ

前二項ヲ適用シ難キ場合ニ於テハ審檢所ハ國際法ノ原則ヲ應用シテ検定ラナスベシ

第七條 各締盟国ハ善意ニ審檢所ノ検定ニ服従スルコト及び自己ノ臣民ニ對シ之ヲ執行スルコト並ニ審檢所ノ命令ヲ有効ナラシムル為メ其國法ニ必要ナル変更ヲ加フルコ

トヲ約ス

第八條乃至第十六條ハ手続ニ闕スルヲ以テ電報セズ

二四一 明治四年六月三日 在海牙都筑大使(ヨリ)  
獨國提案國際高等捕獲審檢所規定報告ノ件 林外務大臣宛(電報)

六月二十六日 後八、一五 海牙発  
二十七日 後一一、四〇 本省着

林外務大臣 都筑大使

第一七号

独逸提案捕獲審檢規定

第一條 商船又ハ其載貨ノ捕獲ハ捕獲審檢所ニ繫属シ第二審ハ其効力ヲ生ズ

捕獲審檢所ガ船舶又ハ貨物ノ捕獲ヲ有効ナリト検定スル場合ニ於テハ之ニ闕スル一切ノ处分ハ拿捕國ノ

國際高等捕獲審檢所ニ繫属ス

第二條 捕獲審檢所ノ第一審ハ拿捕國捕獲審檢所ニ繫属シ第二審ハ其効力ヲ生ズ

捕獲審檢所ガ船舶又ハ貨物ノ捕獲ヲ有効ナリト検定スル場合ニ於テハ之ニ闕スル一切ノ处分ハ拿捕國ノ

法律ニ從フモノトス

捕獲ヲ無効ナリト検定シタル場合ニ於テハ捕獲審檢所其船舶又ハ貨物ノ返還ヲ命シ併セテ損害賠償ノ額ヲ定ム

船舶又ハ貨物カ滅失サレタル場合ニ於テハ審檢所ハ所有者ニ与フベキ賠償ノ額ヲ定ム

審檢所ノ検定ハ職權上之ヲ當時者ニ通告シ其執行ハ検定ノ確定ヲ俟テ之ヲ行フ

第三條 捕獲審檢所ノ検定ニ對シテハ國際高等捕獲審檢所ニ控訴スルコトヲ得

國際高等捕獲審檢所ハ海戰開始ノ時ヨリ之ヲ開設シ戰爭ニ本ツク總テノ捕獲事件ヲ審理スルモノトス

數国ガ海戰ヲ為ス場合ニ於テハ各々二交戰國ノ為ニ高等捕獲審檢所ヲ設クベシ

高等捕獲審檢所ノ検定ハ直チニ執行セラルベシ  
第四條 國際高等捕獲審檢所ハ五人ノ判事ヨリ成リ内一人ハ海軍將官他ノ三人ハ海牙常設仲裁々判官ヲ以テ之ニ充ツ

兩交戰國ハ開戦後二週間に内ニ各々一名ノ海軍將官ヲ選定スルト同時ニ各一ノ中立國ニ向テ判事ノ選定ヲ要求スベシ右中立國ハ次ノ二週間に内ニ自國ニ於テ任命セル海牙仲裁々判官中ヨリ各々一名ノ判事ヲ選定スベシ其次ノ二週間に内ニ於テ右中立國ハ協議ノ上又ハ場合ニヨリテハ抽籤ノ方法ニヨリテ更ニ第三ノ中立國ヲ指定シ之レニ向

ツテ一名ノ判事ノ選定ヲ求ムベシ該中立國ハ次ノ二週間に内ニ自國ニ於テ任命セル仲裁々判所裁判官中ヨリ第五判事ヲ選定スベシ

第五條 高等捕獲審檢所ハ一國ノ捕獲審檢所ノ検定ニ對シテ第一ノ控訴アリタル時ヨリ開始ス

右審檢所ハ平和克復後戰爭ニ基ク總テノ捕獲事件ニ闕スル審檢ノ終結ヲ俟テ直チニ之ヲ閉鎖ス

第六條 高等捕獲審檢所ハ之ヲ海牙ニ設置ス(仲裁々判條約第三六條参照)不可抗力ノ場合ヲ除ク外右ノ所在地ハ交戰當時者双方ノ同意ナクシテ之ヲ他ニ移スコトヲ得ズ

第一條 高等捕獲審檢所ハ法廷ニ於テ自ラ使用シ及其使用ヲ許スペキ國語ヲ選定ス但シ如何ナル場合ニ於テモ交戰當時國ノ國語ハ法廷ニ於テ之ヲ使用シ得ルモノトス(仲裁々判條約第三八号参照)

第十五條 控訴ヲ為スノ権ハ交戰当事國及個人タル当事者ニ屬スルモノトス

○ 本案ハ總計三十五條ヨリ成ルモノ他ノ條項ハ細目ニ涉ルヲ以テ之ヲ略ス又高等捕獲審檢所ニ於テ適用スペキ

法律ニ闕シテハ省略セル條項中ニ明文ナシ為念申添ユ

二四二 明治四十一年六月三丸日 在海外務大臣ヨリ  
在海牙都筑大使宛（電報）

國際上訴捕獲審檢所設置ニ閔スル我意見通知ノ件

附記 右件ニ閔スル海軍側所見覺書

六月二十九日 後二時十分分發

在和蘭 都筑大使

林大臣

第一二号

貴電第一二号ニ閔シ國際上訴捕獲審檢所設置ノ問題ハ戰時禁制品ノ問題ト密接ノ關係ヲ有シ若シ戰時禁制品全廢案ニシテ成立セハ本件審檢所設置ノ問題モ格別重大視スルヲ要セサルヘキモ戰時禁制品ノ制度ヲ全廢スルノ可否ニ就テハ目下帝國政府ニ於テ考慮中ニ屬シ追テ訓令ニ及フベキ筈ナルカ本件ノ如キ國際的機關ノ設置ハ之ヲ仲裁裁判ノ例ニ徵スルモ實際上帝國ニ取リテ得策ナリト思考スルヲ得ス且捕獲事件ニ就キ上訴ヲ許スコト、セハ戰時中益々煩累ヲ增加スルノ結果トナルヘシ故ニ帝國政府ハ大體貴官ノ意見ヲ適當ト認メ右設置案ハ可成之ヲ成立セシメサルヲ利トシ若シ成立ニ至ルモ暫ラク之ヲ加盟ヲ見合ハスコトヲ可ト信スルカ故貴官ハ其御含ニテ行動セラレタシ尤モ本件ハ從來學者

（附記）

國際上訴捕獲審檢所設置ニ閔スル海軍側所見覺書

一、大体ニ於テ都筑全權委員ノ意見ヲ適當ト認ム

國際上訴捕獲審檢所設置ノ問題ハ戰時禁制品ノ問題ト密接ノ關係アリ實例ニ徵スルニ捕獲事件ノ大部分ハ戰時禁制品ニ閔スルノミナラス解決困難ニシテ且感情又ハ偏見ニ依リ不公平ノ檢定ヲ与ヘラル場合モ亦戰時禁制品ニ閔シテ起ルヲ通常トス故ニ若シ戰時禁制品全廢案ニシテ成立セハ國際上訴捕獲審檢所ノ設置問題ノ如キハ格別重大視スルヲ要セサルヘシ然レトモ帝國ハ現今ノ通戰時禁制品ヲ認ムルヲ以テ帝國ノ利益ト信スルモノニシテ同時

二四三 明治四十一年八月八日 在海牙都筑大臣宛（ヨリ）  
林外務大臣（電報）

國際捕獲審檢所設置案議決ノ經過報告ノ件  
八月八日 後一〇、五五 海牙發  
八月九日 前一一、一五 東京着

都筑大使

第八六号

國際高等捕獲審檢所設置案ニ閔シテハ貴電第一二号ニテ電訓アリシガ右ハ第一委員會第二分科會ニ於ケル議事ノ都合上速ニ我意見ヲ發表スルヲ適當ト認メ去月中既ニ電訓ノ趣旨ニ從ヒ声明ヲナセルガ第一分科會ニ特別委員ヲ選ヒ同案ヲ審査セシメタル結果英獨両國間ニ大体ノ折合ツキ両國ノ提案ヲ折衷シ一ノ新案ヲ作ルコト、ナリ仏國モ亦右ニ同意スヘク他ノ大國モ亦略之ニ同意スヘキガ如キ模様トナリタル故逸委員ハ本官ニ對シ切ニ再考ヲ求メ國際審檢所ハ單ニ戰争ノ場合ニ於テノミ効力ヲ生ズルモノナルノミナラズ自國カ中立國タル場合ニハ之ニ依リ必ズ幾分ノ利益ヲ得ヘキ次第ナル故帝國政府ニテ狂ゲテ同意セラル、コトヲ望ム旨ヲ述ベタリ本官ノ推測ニ依レバ英獨両案ノ折合ヒツキタル今日ニ於テハ各國ハ殆ド舉テ新案ヲ賛成スヘク或ハ帝國ノミ独立不賛成ノ側ニ立ツニ至ルコトナキヲ保シ難シ強制

ト最モ穩健ナリトス

仲裁裁判及国際審査所ノ二問題ニ就テハ帝国ハ当初ヨリ不同意ノ旨ヲ發表セル次第ナルニヨリ右ノ為メ我カ態度ヲ変更スル必要ナシトハ認ムレドモ念ノ為メ右事実電報ス尙本官ノ露國委員ヨリ聞キタル處ニ依レハ露國ハ国際検査所ハ「ペルマネント・コート」ノ附屬タルコト及ヒヲ強制的トナサズ「ファキユルタチッフ」ノモノトナスコトノ両條件ヲ附シ新案ニ賛成スベキ模様ナレドモ各国ハ如此広義ナル條件ヲ許容スヘシトモ覺ヘズ右ニ就テハ探知次第電報スヘシ

## 二四五 明治四年八月九日 在海牙都筑大使(ヨリ)

林外務大臣宛(電報)

国際捕獲審査所設置案加盟方英國委員ノ斡旋ニ付應答請訓ノ件

八月九日 後〇、一〇 海牙發

林外務大臣

八月十日 前九、一〇 東京着

都筑大使

八月九日 後〇、一〇 東海牙發

第九号

高等審査所ニ閲シテハ英米仏独間ニ略協議纏マリ兩三日内ニ確定案發表ノ運ビニ至ルヘシ然ルニ其評定官ノ數ヲ限定シタル結果商船ノ噸数ヲ限定シタル結果商船ノ噸数ヲ

基頓トシテ大国ハ各一名トシ小国ハ數カ国合シテ一名ノ年限ヲ數分シテ交替選出スルコト、シ日本ハ勿論一名ヲ選出スル案ナリト云フ日本ハ目下加盟ノ意ナキヲ發表シタルドモ将来多分加入スヘキニ付キ一人丈ケハ日本ノ為ミニ豫備シ置クノ必要アリトノ論ニ基クモノ、如シ右ハ本官カ會議ノ節ニ於テ加入セサルコトヲ公言シタルニ拘ラズ裏面ニテ日本ハ別ニ主義ニ反対ト云フ次第ニ非レバ将来ニハ加入セズトモ限ラズ位ノ愛嬌ヲ匂ハセタル結果ナランカ事情右ノ如クナルニ際シ昨夜英國委員ヨリ懇切ナル依頼アリ即チ段々六ヶシキ協議ノ末評定官ノ配分モ定マリ而シテ右配分案發表ノ上日本ガ将来長ク加入セズトノ意志ヲ發表セバ又々配分ニ閲シ小国ヨリ種々ノ議論出ツヘキニツキ日本ハ或ハ将来加入スルコトアルヘキモ目下ノ處詮議中ナリ位ノ返答ヲナシ吳レヨトノ依頼ナリシ右ハ別ニ将来ヲ束縛セサル範囲内ニ於テ本官限リ取計ラヒ得ヘシトハ信スレドモ念ノ為メ電訓ヲ請フ

## 二四五 明治四年八月十三日 在林外務大臣(ヨリ)

在海牙都筑大使宛(電報)

国際捕獲審査所設置案加盟方英國委員ノ斡旋ニ付スル答請訓ノ件

八月十三日 後一、一五發

都筑大使

林外務大臣

貴電第九号捕獲審査所設置案ニ付シテハ将来束縛セラレサル範囲ニ於テ貴官限可然取計ヘレタシ

## 第一章 総則

(本電信中捕獲国審査所ヘ捕国審所、捕獲審査所ハホクシン所、国際審査所ハ国審所、国際事務局ハ国事局ノ文句ヲ用ユ)

第二條 捕獲事件ハ先ツ捕獲国ノ審査所ニ於テ之ヲ行ヒ其檢定ハ公開ノ上之ヲ宣告スルカ又ハ利害關係者ニ通知スヘキコト

第三條 捕国審所ノ檢定ニシテ左ノ事項ニ當ルモノハ国審所ニ上訴スルコトヲ得ルコト

一、捕国審所ノ檢定カ中立國又ハ中立人ノ財産ニ閑スルトキ

二、右檢定カ敵貨ニ閑スル場合ニ於テハ

- (A) 中立船内ニアル載貨ナルトキ
- (B) 中立國領海内ニ於テ拿捕セラレタルモ該中立國ニ於テ該捕獲事件ヲ外交上ノ談判ノ目的ト為サ、ル敵船ニ閑スルトキ

(C) 兩交戰國間ノ現行條約ノ規定ニ反シ又ハ捕獲国ノ法令ニ反シテ捕獲ヲ為セリトノ事實ニ付テ争アルトキ、

捕國審所ノ檢定カ事實上又ハ法律上不当ナリト認ムルトキハ該檢定ニ付シテ上訴スルコトヲ得

第一〇六号

獨米仏英四國委員ノ協議ニ成レル国際捕獲審査所條約案ノ要領左ノ如シ

林外務大臣

都筑大使

八月二十七日 前七、一〇 海牙發

東京着

第四條 上訴ヲ為スヲ得ルモノ左ノ如シ

一、捕國審所ノ檢定カ中立國若ハ其ノ臣民ノ財產ヲ侵害

スル場合又ハ捕獲カ中立國ノ領海内ニテ行ハレタリト

認ムル場合ニハ該中立國

二、右檢定カ中立國臣民ノ財產ヲ侵害スル場合ニハ該中立國臣民但シ中立國ハ其臣民ノ上訴スルコトヲ禁止シ

又ハ自ラ其臣民ニ代リテ上訴スルノ權ヲ有ス

三、右檢定カ第三條第二号（Bノ場合ヲ除ク）ニ定メタル場合ニ於テ敵國臣民ノ財產ニ關スルトキハ該敵國臣民

第五條 前條ニ拠リ上訴ヲ許サレタル個人ノ繼承人（A. vants droit）ハ敵人タルト中立人タルトヲ問ハス又上訴ヲ為スヲ得該繼承人ノ所屬國タル中立國モ亦同シ

第六條 第三條ニ拠リ國審所ノ管轄ニ帰スル場合ニハ捕國審所ノ審檢ハニ審以上ニ涉ルヘカラサルコト捕國審所ニ

於テ捕獲ノ日ヨリ二年以内ニ檢定ヲ下サ、ルトキハ直ニ國審所ニ上訴スルヲ得ルコト

第七條 適用スヘキ法律問題ニシテ捕獲國及係爭當事國又ハ係爭者ノ所屬國間ニ締結セル條約ニ規定アル場合ニハ

第十三條 國審所ハ十五名ノ判事ヲ以テ開廷ス内九名ノ判事ハ必ス列席ヲ要ス（quorum nécessaire）判事欠席スルトキハ豫備判事之ニ代ル

第十四條 記名國タル独、米、墺、仏、英、（西）<sup>伊？</sup>日露國ヨリ指名セル判事ハ任期中常ニ職務ヲ執ルモノトス其他ノ諸國ヨリ指名セル判事豫備判事ハ別表ニ定メタル所ニ依リ輪番ニ職務ヲ執ル

第十五條 職務輪番ノ為メ交戰國ノ指名セル判事現ニ職務ヲ執フサル場合ニハ該交戰國ハ其指名セル判事ヲシテ戰

争ヨリ生シ得ル一切ノ事件ノ檢定ニ加ハラシムルコトヲ請求スルヲ得右ノ場合ニハ輪番ノ判事中ヨリ抽籤ヲ以テ除外セラルヘキモノヲ定ム但シ他方交戰國ノ指名セル判事ヲ除外スルヲ得ス

第十七條 捕獲國ハ高級海軍士官ヲ指名シ參加人（assesseur）トシテ派遣スルコトヲ得

右參加人ハ發言ノ權ヲ有ス係爭當事國タル中立國及係爭者ノ所屬國タル中立國亦同シキコト

第二十條 國審所ハ海牙ニ之ヲ設置ス不可抗力ノ場合ヲ除クノ外交戰國双方ノ合意ナクシテ之ヲ他ニ移スルヲ得ス

第二十三條 國審所ハ其使用スヘキ國語ヲ定ム捕國審所ニ

第六章 會議ノ進行、國際捕獲審檢所 二四六

國審所ハ該條約ヲ適用スヘシ右條約ナキトキハ國審所ハ國際法ノ規則ヲ適用スヘク若シ一般ニ認メラレタル國際法ナキトキハ正義及公平ノ一般原則ヲ適用スヘシ證拠方法及審檢手続ニ関シテモ亦同シ第三條第一号Cノ場合ニ

於テ捕獲國ノ法令ニ反シタリトノ訴アルトキハ該法令ヲ適用スヘシ捕獲國ノ規定セル審檢手續上訴權ヲ失ヒタル場合ニ於テ右ノ結果ハ正義公平ニ反スト認ムルトキハ國審所ハ該訴權ヲ失ヒタルコトヲ承認セサルコトヲ得

第八條 國審所ニ於テ捕獲ヲ有効ナリト檢定セルトキハ捕獲國ノ法令ニ拠リ之ヲ施行スヘシ無効ナリト檢定シタルトキハ國審所ハ船舶載貨ノ麥更ヲ命シ且ツ必要アラハ損害賠償ノ額ヲ定ム船舶載貨力既ニ売却又ハ破壊セラレタルトキハ其賠償額ヲ定ムホクシン所ニ於テ捕獲ヲ無効ナリト檢定セル場合ニハ國審所ハ單ニ損害ニ關スル事件ノミヲ檢定ス

## 第二章 國審所ノ構成

第十條 國審所ハ記名國ノ指名セル判事及豫備判事ヲ以テ組織ス

第十一條 判事及豫備判事ノ任期ハ六ヶ年間トス再任スルコト得

於テ公認セル國語ハ國審所ニ於テ之ヲ使用スルコトヲ得

## 第三章

審檢手續ハ第廿七條乃至第四十九條ニ規定セリ其ノ重モナル條項ヲ擧クレバ

上訴ハ書面ニテ捕國審所又ハ國事局ニ提出スヘク國事局ニ對シテ電信ヲ以テ上訴スルヲ得上訴期間ハ檢定後（第二條）四ヶ月内トス捕國審所ニ上訴ノ提出アリタルトキハ右審檢書ヲ受理シ七日以内ニ一件書類ヲ國事局ニ送ルヘク又知シ一件書類ヲ送ラシム又中立人ヨリ上訴アリタルトキハ國事局ハ直ニ電信ヲ以テ之ヲ該中立國ニ通知スヘシ第六條第二項ノ場合ニハ一ヶ年經過後三十日以内ニ國事局ニ上訴スヘシ審檢手續ハ書面審理及口頭弁論ノ二トシ書面審理終リタル後口頭弁論ヲ開クコト等詳細ナル規定アリ

## 第四章 補則

第五十條乃至第五十一條ノ二條ニシテ批准ニ關スルコト本條約ハ批准後六ヶ月ヲ經テ有効ナルコト十二年間繼續スヘク之ヲ廢止セサルトキハ當然六年ツ、新セラルヘキコト及脱退ニ關スルコトヲ規定セリ

(別表) 西班牙ノ判事及豫備判事ハ各四年間職務ヲ執リ蘭國ノ判事

牙、土耳其、支那、瑞典、「ルーマニア」ノ判事及豫備判事ハ各二年間「アルゼンチン」、智利、墨西哥、「ブラジル」ノ判事ハ二年間「ブルガリア」、「ペルシャ」瑞西ノ判事及豫備判事ハ各一年「コロンビア」、「セルビア」、暹羅、「ウラグアイ」、「ベネズエラ」ノ判事ハ一年間其他ノ小国ハ豫備判事ヲ指名スルヲ得ルニ過キシテ而モ一年間職ヲ執ルコト、為レリ

国際捕獲審査所設置案ハ別表ト共ニ第一委員会第二分科会ノ調査会ヲ通過セリ

各国ガ本條約ヲ調印スル期間ニ付テハ該調査会ニ於テハ來年六月三十日迄トナス意嚮ナルモ最後ノ規定ハ総會議ノ編纂委員会ニテ定ムル見込、右ノ期間ヲ設クルコトハ多分成立スルナラム本案殊ニ別表ニ付テハ既ニ「ブラジル」國委員ヨリ反対意見ヲ提出シ爾余ノ小国ニテモ反対スルモノアルガ如シ然レドモ諸強國ノ意見ハ将来戦争起ルトキハ小国モ必ズ本條約ニ加入スルナラントテ此際小国ノ反対意見ニ拘ラス本案ヲ成立セシメントスルノ意嚮ナリ依テ本案ハ大体此儘通過スルコト、信ズ本官ハ本案ハ新規ノ問題ナル為メ帝國将来ノ是否ニ照シ充分ノ研究ヲナスク要スルノミナラズ本国政府ノ遠隔ナル為メ豫メ充分ノ打合セラナスノ違ナキヲ以テ暫ク確定意見ノ發表ヲ留保ストノ態度ヲ採ラントス

二四七 明治廿五年八月三十七日 在海牙都筑大使(ヨリ)  
林外務大臣宛(電報)  
国際捕獲審査所設置案ニ対スル我態度報告ノ件  
八月二十七日 後六、〇〇 在海牙都筑大使(ヨリ)  
林外務大臣宛(電報)  
八月二十八日 後五、〇〇 本省着  
第一〇九号  
往電第一〇六号ニ閲シ

都筑大使

第一〇九号

往電第一〇六号ニ閲シ

二四八 明治廿五年九月九日 在海牙都筑大使(ヨリ)

林外務大臣宛(電報)

第一委員会ニ於ケル捕獲審査所設置案ノ討議状

況報告ノ件

九月十九日 後三、二〇 海牙発

都筑大使

第一三〇号

捕獲審査所設置案ハ本日第一委員会第一分科会ニテ原案ノ

通り通過セリ贊成者二十六ヶ国内ニ審査所ノ組織ニ閲シ留保シタル小国四五アリ反対者ハ伯刺西爾、土耳其ノ二国ニシテ日露及小国ヲ込メ十五ヶ国ハ abstain セリ小官ハ篤クト調査ヲ遂グルマデ可否ヲ表明セズト宣言セリ

第五十三條各國ハ前條ニ定メタル批准書ノ保管アルマテ本條約ニ記名スルコトヲ得ルコト其以後ニ於テハ各國ハ何時ニテモ蘭國政府ニ通告ノ上何等條件ヲ有セシテ本條約ニ加盟スルコトヲ得ルコト等、第五十四條本條約ハ批准書交換後六ヶ月ヲ経テ実施セラルコト加盟ハ蘭國政府ニ通告後又ハ加盟通告後捕獲國審檢所ニテ検定シタル事件ヲ審理スルヲ得ルコト、第五十五條本條約ハ實施後十二ヶ年間効力ヲ有スルコト明ニ廢棄セラレサル時ハ六カ年毎ニ更新セラルヘキコト等、第五十六條各國ニ於テ批准セサル場合ニ

第五十三條各國ハ前條ニ定メタル批准書ノ保管アルマテ本條約ニ記名スルコトヲ得ルコト其以後ニ於テハ各國ハ何時ニテモ蘭國政府ニ通告ノ上何等條件ヲ有セシテ本條約ニ加盟スルコトヲ得ルコト等、第五十四條本條約ハ批准書交換後六ヶ月ヲ経テ実施セラルコト加盟ハ蘭國政府ニ通告後又ハ加盟通告後捕獲國審檢所ニテ検定シタル事件ヲ審理スルヲ得ルコト、第五十五條本條約ハ實施後十二ヶ年間効力ヲ有スルコト明ニ廢棄セラレサル時ハ六カ年毎ニ更新セラルヘキコト等、第五十六條各國ニ於テ批准セサル場合ニ

ハ評議会ニ於テ批准國ヨリ選出スヘキ判事及豫備判事ノ配當表ヲ作ルコト判事ノ総數十一名ニ充タサル時ハ必ス列席ヲ要スヘキ判事ハ七名トスルコト等、第五十七條判事等ノ配當表改正手続ニ闕スルコト  
右ノ外審檢手續等ノ規定ハ長文ニ涉ルヲ以テ之ヲ省略ス必  
要アラハ直ニ電報スヘシ

## 第四節 開戦ニ関スル宣言關係

二五〇 明治四年七月三日 在海牙都筑大使(ヨリ) 林外務大臣宛(電報)

戰鬪開始ニ關スル仏國提案ニ對スル露國ノ賛成  
宣言報告ノ件

七月三日 後一、三五 海牙發  
四日 前一一、〇八 東京着

七月五日 後一、四五 海牙發  
六日 前五、四五 東京着

都筑大使  
林外務大臣

第三九号

本日開会セル第二委員會第一分科会ニ於テ英米以外ノ諸大

國ハ皆戰鬪開始ニ關スル仏國ノ提案ニ賛成セリ英米兩國委員ハ夫々本国政府ニ請訓中ナリ恐ク仏國提案ノ意義明確ヲ

露國委員ハ六月廿九日ノ第二委員會分科会ニ於テ戰鬪開始ニ關スル仏國提案ニ賛成ノ趣宣言セリ然レトモ他ノ重ナル諸國ハ未タ本件ニ關スル意見ヲ發表セス  
註 仏國提案ハ前掲二一四文書木項參看

二五一 明治四年七月三日 在海牙都筑大使(ヨリ) 林外務大臣宛(電報)

戰鬪開始ニ關スル仏國ノ提案ニ對スル列國ノ態度  
報告並ニ右ニ対シ任意裁量ノ權限附与方稟請  
ノ件